

10がっのくもの子の云だより

<H.27.9.25>

～「メディア漬けで壊れていく子どもたち」～

梅雨の雨が雨つぎから、急激な気温上昇での厳しい夏、
 えて、朝夕と急に涼しくなり、日中は暑かた、気温差が大きく、
 気候の変化も、極端で、台風の影響なども含め、自然環境
 の悪化と恐さを ますます感じる 今年となっています。

こんな中で、未来ある子ども達を どう育ていくか、私たち保育者、
 大人は、(ほんとうに)改めて、考えみつめて、子ども達に携わっていかね
 てはならないと思います。自然の変動や温暖化により極端化する
 気象での自然環境悪化に加え、メディアによる善などの人間が
 おかしてきている人間社会や子どもを育てる環境の悪化も急速にすす
 んでいると思えます。ますます子どもの育ちがどうなっていくか、と危惧
 しています。

先日、九州保育団体合同研究集云で2日間に行われ、いろいろな
 ことを学び、現代の子どもをとりまく環境、幼、保の実態などもまた
 わかるとのこと、そこで、「メディア漬けで壊れる子どもたち」はなしもき
 きました。子育てにおいても、たぶん、問題、課題が年々増え、新たな
 ことまで出てきている中、この「メディア漬け」の問題は、特に深刻なこ
 とだと感じています。

「メディア漬け」にして育てると、どんな歪みや遅れが現れ、起るのか、が言われています。

体が育たない！ コミュニケーション能力が育たない、生命感覚、身体感覚が歪む、対人関係のもつれ、
 脳にも異常が... 生活リズムの乱れ(睡眠、食事)、遊び不足、運動不足、依存症、行動の変容:異常なイセ。

1960年代の半ば以降激減してしまった「外遊び」
 の時間は、子どもたちが大自然や生き物とふれあい、
 代々継承されてきた遊びのルールを身につけ、集団
 の中で挫折も含めた多様な体験をしながら、体も
 心も「人間になっていく」という豊かな「子ども文化」
 の時間でありました。

鬼ごっこやかくれんぼなどで体験する緊張と弛緩
 の繰り返しは、子どもの心臓や肺や筋肉の発達
 を促し、自律神経の発達にも大きく貢献していました。
 また、体を動かし、感情がぶつかり合うような
 「濃い人間関係」は、脳の発達に不可欠だとい
 う脳科学の指摘もあります。

魚や虫を追いかけて、へビに逃げまわると、時には
 それを殺すという体験の中で子どもたちの生命感覚や
 身体感覚も成熟していきました。

有史以来、人間という生き物は、子ども期に
 「遊び」という「子どもの文化」体験を積み重ね
 ながら、体と心、そして言葉の力を育ててきたのだ。

「メディア漬けで
 壊れる子どもたち
 だより」